中学２年　国語科　教材別テスト②　アイスプラネット　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　椎名誠「アイスプラネット」（光村図書『国語２』）

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語２』（光村図書）の「アイスプラネット」のページを開いたまま**解答します。この作品は、中学生の「僕」が語り手となる一**人称**の小説です。**人物像のとらえ方**と「僕」の**心の変化（成長）**を読み取ることが中心になるため、記述問題を多めにしてあります。抜き出しではなく、**自分の言葉でまとめる**練習をしましょう。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（語の意味・慣用句・対義語・熟語の組み立て）	２点×７＝14点
	三	文法（動詞の活用の種類・活用形）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「アイスプラネット」の読解（12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　動詞の**活用の種類**（五段・上一段・下一段・カ行変格・サ行変格）と**活用形**（未然・連用・終止・連体・仮定・命令）を区別できるか。

②「ぐうちゃん」という**人物像**と、「僕」との**距離感**を、呼び名や行動からとらえられるか。

③「ほら話」だと決めつける「僕」の心理と、同級生に話して恥をかいた出来事の**意味**を説明できるか。

④「アイスプラネット」が**広い世界・自分の目で見ることの価値**を象徴していると気づけるか。

⑤　手紙と写真をきっかけとした「**僕**」**の変化（成長）**を、指定字数でまとめられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	いそうろう	⑪	胸
②	わくせい	⑫	涙
③	ひょうが	⑬	海岸
④	ぬま	⑭	遠慮
⑤	す（んだ）	⑮	冒険
⑥	あせ（る）	⑯	冗談
⑦	は（ずかしい）	⑰	信用
⑧	さび（しい）	⑱	習慣
⑨	こうや	⑲	確かめる
⑩	ただよ（う）	⑳	成長

小計　20点

【注意したい字】

①「居候」は**特別な読み**。「いこう」「きょこう」としないこと。②「惑星」の「惑」は「或」＋「心」。「感星」と書く誤りに注意。⑤「澄んだ」は「すんだ」。「とんだ」「きよんだ」ではない。⑦「恥ずかしい」は送りがなが「ずかしい」。「恥かしい」は×。⑧「寂しい」は「さびしい」(「さみしい」も可とするが、まずは「さびしい」で覚える)。⑩「漂う」は「ただよう」。⑫「涙」はさんずい。⑭「遠慮」の「慮」は「虍」の下に「思」。⑯「冗談」の「冗」は「几」の上に「冖」。「上談」「情談」は×。⑲「確かめる」は送りがなまで必要。「確める」は×。⑤⑥⑦⑧⑩⑲は**送りがなが必要**。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**イ**	「居候」＝他人の家に住み、食事などの世話をしてもらっている人。この作品では、ぐうちゃんの立場そのものを表す重要語。ア「宿屋」エ「独り暮らし」では、他人の家にいるという条件を満たさない。
(2)	**ア**	「ほらを吹く」＝大げさな作り話をする。「ほら話」はその名詞形。イ・ウは「ほら貝を吹く」という字面からの誤り。
(3)	**ウ**	「目を丸くする」＝とてもおどろく。ア「鼻が高い」＝得意になる。イ「耳が痛い」＝弱点を指摘されてつらい。エ「顔が広い」＝知り合いが多い。
(4)	**舌**	「舌を巻く」＝おどろき、ひじょうに感心する。「口」「手」は×。漢字で書けていることが条件。
(5)	**イ**	現実 ⇔ 理想。ア「事実」エ「真実」は現実に近い**類義語**なので誤り。ウ「想像」は「現実」の対として使うことはあるが、対義語としては「理想」が基本。
(6)	**到着**	出発 ⇔ 到着。「到」の字形（「至」＋「刂」）に注意。「倒着」は×。
(7)	**ウ**	「氷河」＝「氷の河」で、上の字が下の字を**修飾**する組み立て。同じものは「温水」(温かい水)。ア「高低」は反対の意味、イ「読書」は「書を読む」で下が目的、エ「国立」は「国が立てる」で主語・述語の関係。

小計　14点

三　動詞の活用　（２点×８＝16点）

番号	――線部	解答	解説（見分け方）
(1)	**吹く**	**五段活用**	「ない」をつけると「吹**か**ない」。直前が**ア段**になるので五段活用。
(2)	**起きる**	**上一段活用**	「起**き**ない」。直前が**イ段**になるので上一段活用。
(3)	**跳ねる**	**下一段活用**	「跳**ね**ない」。直前が**エ段**になるので下一段活用。
(4)	**来る**	**カ行変格活用**	「来る」一語だけの特別な活用。こ・き・く・くる・くれ・こい。
(5)	**（旅）する**	**サ行変格活用**	「する」と「〜する」（旅する・勉強するなど）だけの特別な活用。
(6)	**見**	**連用形**	下に「**た**」が続いている。「た・て・ます」に続く形は連用形。
(7)	**読め**	**仮定形**	下に「**ば**」が続いている。「ば」に続く形は仮定形。命令形の「読め」と形が同じなので、**下に何が続くか**で判断する。
(8)	**進め**	**命令形**	そこで言い切り、**命令**する形になっている。(7)の「読め（ば）」と形は似ているが、「ば」**が続かない**ので命令形。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【動詞の活用を見分けるコツ】

①　**活用の種類**は「**ない**」をつけて、直前の音がア段→五段／イ段→上一段／エ段→下一段。ただし「来る」＝カ行変格、「する・～する」＝サ行変格は**先に例外として覚える**。②　**活用形**は、その語の**あとに続く言葉**で決まる。ない・う・よう→未然形／た・て・ます→連用形／言い切り→終止形／体言（名詞）→連体形／ば→仮定形／命令して言い切り→命令形。③　五段活用の「～え」の形は、**仮定形と命令形で同じ形**になる。「ば」があるかどうかが分かれ目。

四　「アイスプラネット」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**イ**	ぐうちゃんは**母の弟**（＝「**僕**」**のおじ**）で、定職を持たず「僕」の家の部屋に**居候**している**独身**の人物。アは「父の兄」「会社経営」が誤り。エ「下宿人」は家賃を払って借りている人で、居候とはちがう。
(2) 3 点	**ウ**	「ぐうちゃん」というくだけた愛称は、**親しさ**と、何をしているかよく分からない人物への**あきれ・軽い見下し**が同時にこもった呼び方。「僕」とぐうちゃんの**距離の近さと、まだ対等でない関係**がここに表れている。アは「尊敬・あらたまった扱い」が逆。 イ・エは、家族と話をしている場面と合わない。
(3) 4 点	**（例）定職につかず家に居続けることを心配しているため。(24字)**	「**働いていない／定職がない**」（２点）＋「**心配している／このままではいけないと思っている**」（２点）の二点で採点。 「きらいだから」「じゃまだから」のように、**嫌悪だけ**を書いたものは１点。母は姉として弟の将来を気にかけている。「～ため。」の形で結んでいないものは－１点。二十五字を超えたら－１点。
(4) 4 点	**イ**	「僕」は中学生で、家と学校という**せまい世界**しか知らない。だから、自分の経験の枠からはみ出す話は「ありえない＝ほら話」としか受け取れなかった。これは「**僕**」**の側の限界**であり、ぐうちゃんがうそをついていたわけではない。アは本文と合わず、ウ・エは根拠がない。
(5) 5 点	**（例）同級生に笑われて恥をかき、ぐうちゃんにだまされてくやしいという気持ち。(35字)**	「**同級生に笑われて恥をかいた・きまりが悪い**」（２点）＋「**だまされたと感じ、腹を立てる／うらむ**」（３点）の二点で採点。 「おもしろかった」「どうでもよくなった」は０点。**ぐうちゃんへの不信が強まった**という向きが書けていることが条件。「～という気持ち。」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(6) 4 点	**ウ**	巨大なナマズやアナコンダの話は、**世界の広さ・不思議さを示す具体例**であり、同時にそれを受け入れられない「**僕**」**の幼さ**を読者に見せる働きをしている。つまり、のちの「僕」の変化を際立たせるための**前ふり**。アのように人物を否定するためではない。
(7) 4 点	**イ**	「アイスプラネット（氷の惑星）」は、実際の天体の話ではなく、「**僕**」**がまだ自分の目で見ていない広大な世界**の象徴。「自分の目で確かめることには価値がある」という主題と直結する。ウの環境問題、エの「子どものころの夢」は本文の内容ではない。

四　「アイスプラネット」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(8) 3 点	**エ**	一人称の語りでは、読者は「**僕**」**の見方・思いこみごと**物語を体験する。だから、「ほら話だ」と決めつけていた見方がくずれる瞬間の**おどろきを、読者も一緒に味わえる**。アは三人称全知の語りの特徴なので誤り。
(9) 4 点	**ウ**	「僕」は、ぐうちゃんがいなくなっても平気なふりをするが、実際には**張り合いのなさ・寂しさ**を感じている。けんかのように別れてしまったことへの**後悔**もふくまれる。ア「心からほっとしている」、イ「すっかり忘れ」は、強がりの裏側を読めていない。
(10) 5 点	**（例）世界は広く、自分の目で実際に確かめることが大切だということ。(30字)**	「**世界は広い／ほら話ではなかった**」（２点）＋「**自分の目で見て確かめることが大切だ**」（３点）の二点で採点。 写真は「ほら話が本当だった」という**証拠**であり、手紙での呼びかけとあわせて、「**僕**」**自身が出かけていくことをすすめる**メッセージになっている。「ぐうちゃんは元気だということ。」のように**近況報告だけ**にしたものは１点。「～こと。」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(11) 6 点	**（例）ぐうちゃんの話を信じ、自分の目で広い世界を見たいと思うようになった。(34字)**	「**ぐうちゃんの話を疑わなくなった／信じるようになった**」（３点）＋「**自分も世界を見に行きたい・経験したいと思うようになった**」（３点）の二点で採点。 「**前は～だったが、今は～**」**という変化の形**になっていれば、表現は自由。「ぐうちゃんが好きになった」だけのものは２点。「写真を見ておどろいた」のように**出来事をなぞっただけ**のものは０点。二十五～四十字から外れたら－１点。
(12) 4 点	**ア・ウ・オ**	ア・ウ・オは「私」「僕」「ぼく」と語り手自身が登場人物として語る**一人称**の文なので○。イは「彼」、エは「少年」と、語り手が外から人物を見て語る**三人称**の文なので×。**ア・ウ・オの三つそろって４点（完答）**。一つでも足りない、または余分があれば０点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. ぐうちゃんは**母の弟**。「父の弟」「近所の人」とまちがえやすい。**居候**という立場も必ず押さえる。
2. 「ぐうちゃん」という呼び名そのものが、**親しさとあきれ**という「僕」の二重の気持ちを表している。
3. 「ほら話」だと決めつけたのは**ぐうちゃんの落ち度ではなく、「僕」の世界がせまかった**から。責任の向きをまちがえない。
4. 同級生に笑われた出来事は、単なる失敗談ではなく、**「僕」の不信を決定的にする**ための場面。
5. 「アイスプラネット」は**象徴**。氷の惑星そのものの説明を求められているのではなく、**広い世界・見ることの価値**を答える。
6. ぐうちゃんの旅立ちのあとの「僕」は**強がっている**。表面の言葉と本当の気持ちが**逆向き**になる。
7. 手紙と写真は、**「ほら話が本当だった」という証拠**と、**「おまえも自分の目で見に行け」という呼びかけ**の二つの意味をもつ。両方書けて満点。
8. 記述は**出来事のなぞり書きでは０点**。「〜という気持ち。」「〜こと。」「〜ため。」と、**問いに対応した形**で結ぶこと。